

## 春作バレイショにおける秋作産種イモの浴光ならびに温蔵処理効果

小村 国則 (長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場)

Kuninori KOMURA : Effects of Greening and Sprouting by Warm Storage on Spring Cropping of Seed Potato Produced in Autumn Cropping

暖地秋作産種イモを浴光または温蔵処理して春作栽培した場合の生育、収量について検討した。

### 1. 試験方法

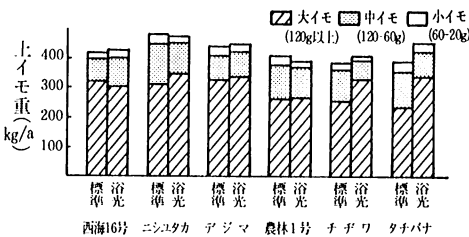
試験 1 1981年に早生～晩生の6品種を用いて浴光処理の効果を検討した。浴光処理はガラス室内のビニールトンネル内に12月24日から50日間貯蔵し、その後半透明の青いシートをかけてガラス室内に置いた。

試験 2 1982年に4品種を用いて浴光、温蔵処理の効果を見た。浴光処理は1981年12月2日収穫の種いもをガラス室内に1月21日から35日間置いた。温蔵処理は12月16日から31日間22℃のふ卵器内に置いた。

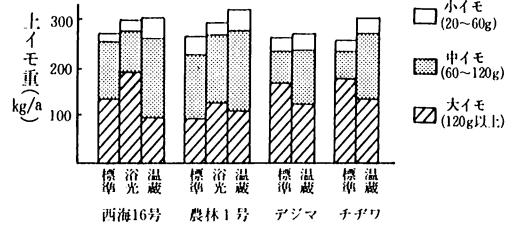
試験 3 1982～84年に農林1号を用いて、温蔵処理と北海道産種イモとの生産力の比較を行った。

### 2. 試験結果および考察

試験 1 浴光区の休眠明け期は30日早く、萌芽期は3日早くなった。収量に対する効果はタチバナ、チチワなどの晩生品種が大であった(第1図)。



第1図 種イモ浴光による生産力の比較 (1981年3月6日植付け～6月16日収穫)



第2図 種イモの浴光、温蔵処理による生産力の比較 (1982年2月27日植付け～6月11日収穫)

試験 2 温蔵区の休眠明け期は57日早く、萌芽期は10日早くなった。温蔵区の萌芽促進効果は浴光区よりさらに大きい。茎数が多いため、イモ数が多くなり、大イモの割合が低くなる傾向がみられた(第2図)。

試験 3 温蔵処理および北海道産種イモが生育・収量に及ぼす影響について第1表に示した。両区間に萌芽期、開花期の差はみられないが、収穫時の茎葉黄変は北海道区でやや早かった。1984年春作は温蔵処理の開始時期を遅らせた結果(1月30日から20日間22℃のふ卵器内に貯蔵)、茎数も少なく、大イモの割合も高くなった。

以上から、浴光処理の効果は品種の早晩生によって違い、早生品種は軽く、晩生品種は強く処理することによって増収効果が認められた。温蔵処理は初期生育を早め、多収となるが、小イモ傾向となるため採種栽培に適する。また、青果用には大イモ割合を高めるため、植付時に休眠明けとなる程度の処理を行うことが重要と考えられる。

第1表 種イモ温蔵処理による春作での生育および収量 (農林1号)

試験年次	処理区	休眠明け期 月 日	植付期 月 日	萌芽期 月 日	開花期 月 日	収穫期 月 日	茎長 cm	茎数 本/株	茎葉重 g/株	イモ個数 個/株	イモ重 kg/a	同左 対標比 %	平均 1個重 g	澱粉価 %
1982 (春作)	標準	3.11		4.14	5.17		61	1.3	248	5.0	271	100	82	15.1
	温蔵	1.14	2.27	4.1	5.9	6.11	56	2.4	219	5.7	330	122	86	16.7
	北海道	12.下		4.1	5.9		49	2.8	184	6.4	336	124	78	17.3
1983 ( " )	標準	3.17		4.14	5.19		67	1.4	304	4.3	183	100	65	13.4
	温蔵	1.16	3.7	4.6	5.10	6.8	55	2.6	278	6.6	298	163	68	16.6
	北海道	12.下		4.5	5.10		60	3.5	273	6.1	257	140	63	16.8
1984 ( " )	標準	3.28		4.16	5.21		74	1.0	462	4.4	310	100	106	13.0
	温蔵	2.14	2.20	4.5	5.10	6.12	59	1.1	4.4	4.9	427	138	132	14.6
	北海道	12.下		4.4	5.10		65	2.5	394	6.3	410	132	97	14.5

注) 1) 畦幅60×株間25cm, 30株の3区制 2) 施肥量(kg/a) N:1.2, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:1.3, K<sub>2</sub>O:1.4, 堆肥:100